

大型積みブロック (0.5㎡サイズ) CVハーフ

施工要領書

(2020年6月版)

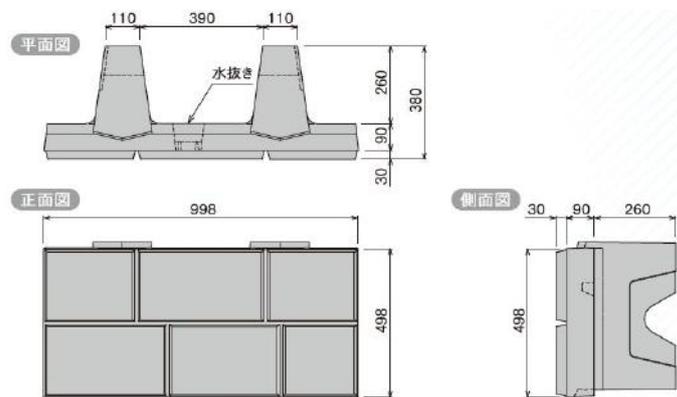


目 次

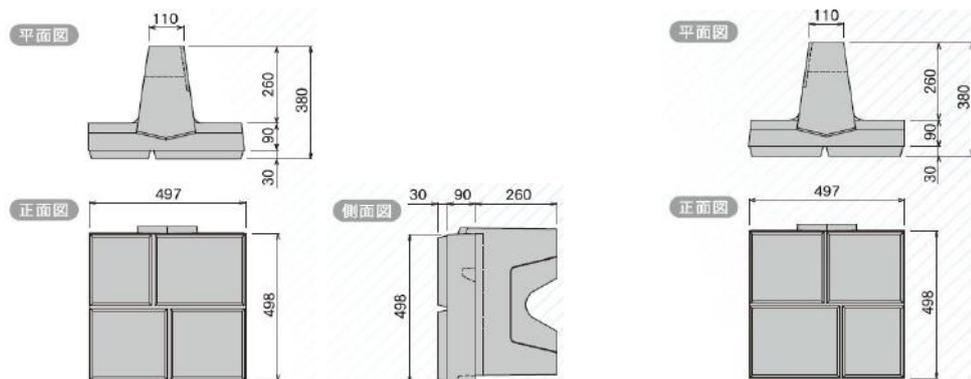
1.	ブロックの種類	1
2.	標準施工フロー	2
3.	基礎工	3
4.	ブロック積工	3
5.	天端コンクリート工	7
6.	伸縮目地工	7
7.	曲線施工	7
8.	水抜孔	9
9.	吊り金具の使用上の 注意事項	10

1. ブロックの種類

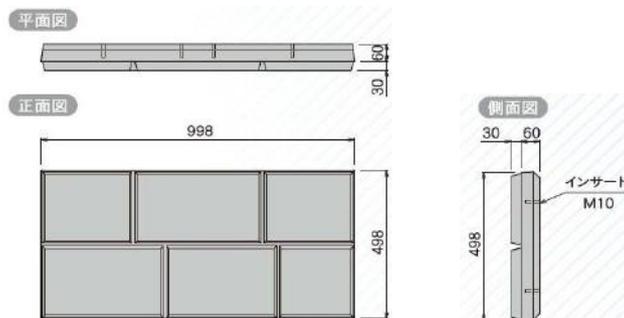
【 Aブロック 】 参考質量:180kg



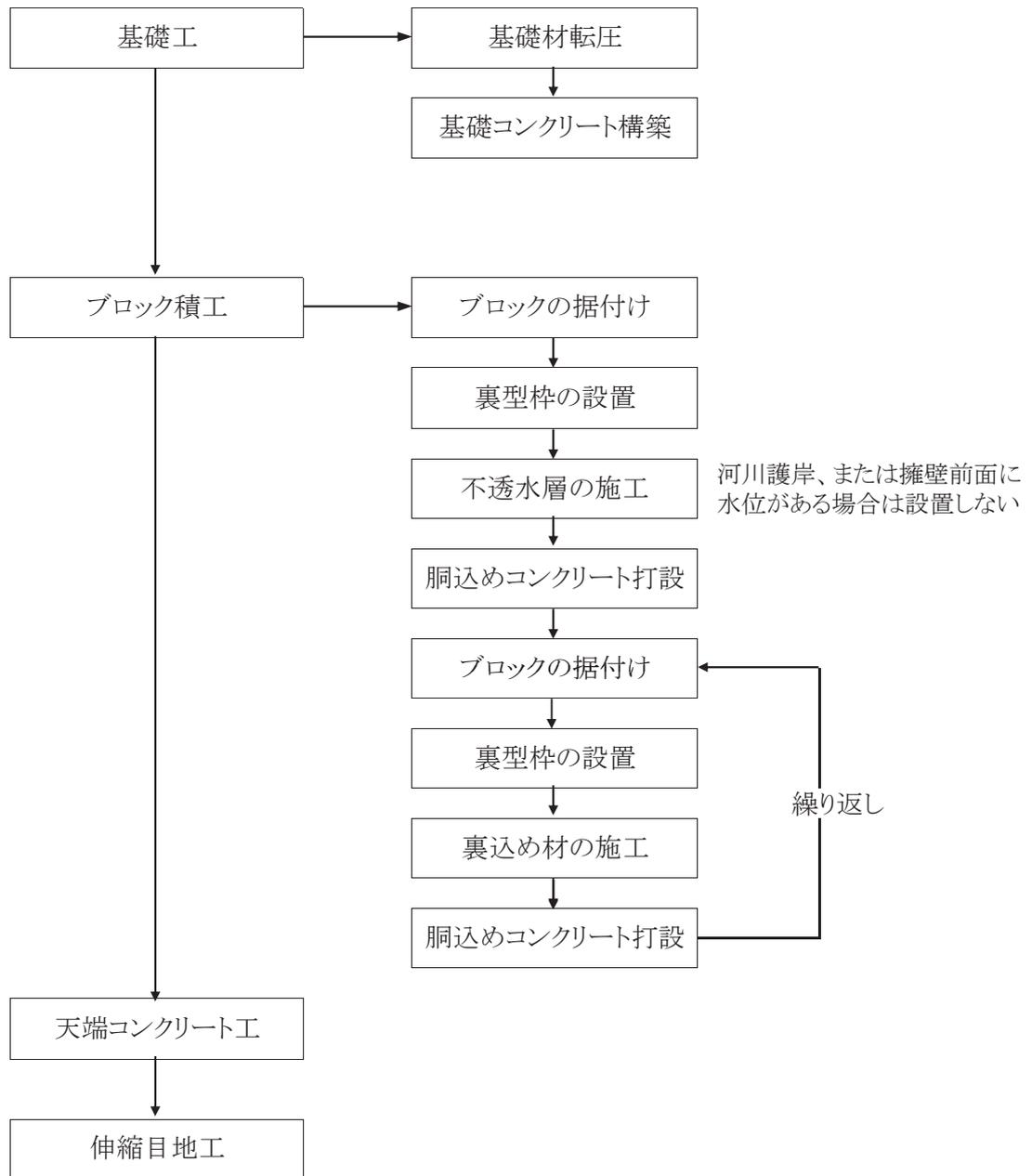
【 Bブロック 】 参考質量:90kg



【 調整パネル 】 参考質量:84kg



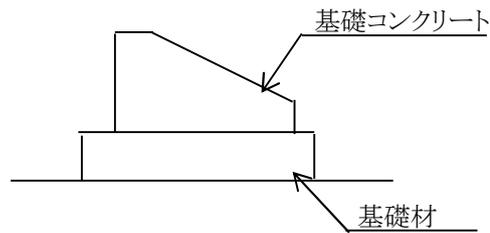
2. 標準施工フロー



3. 基礎工

支持地盤が土の場合は、基礎材を敷き均し十分に転圧した後、基礎コンクリートを施工する。 支持地盤が岩盤の場合は基礎材は用いない。

基礎工は水平を標準とし、縦断勾配が大きい場合は階段状の基礎とするのが望ましい。一般的には、縦断勾配が5%程度までは、勾配に沿って基礎を設置するが、5%を超える場合には水平に設置する。



* 基礎材及び基礎コンクリートの寸法は設計図書に準拠する。

4. ブロック積工

ブロック(CVハーフ)積みは、法勾配及び縦断勾配を確認しながら据付ける。

施工順序を以下に示す

(1) ブロックの据付け

吊上げ冶具を用いてクレーン等でブロックを吊上げ、据付用丁張りに合わせて据付ける。所定勾配の確保が不十分な場合にはライナープレートなどで微調整を行う。

【吊上げ冶具による吊り状況】

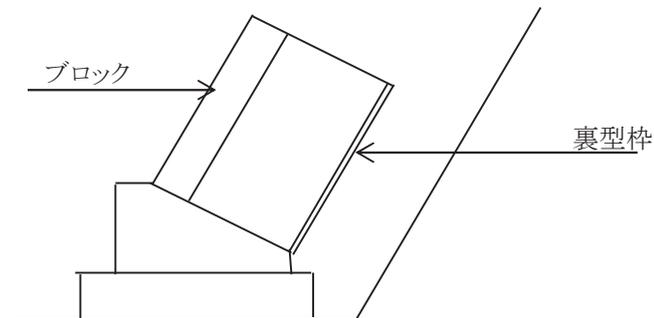
3分～5分勾配



※つり金具は形状を変更する場合があります

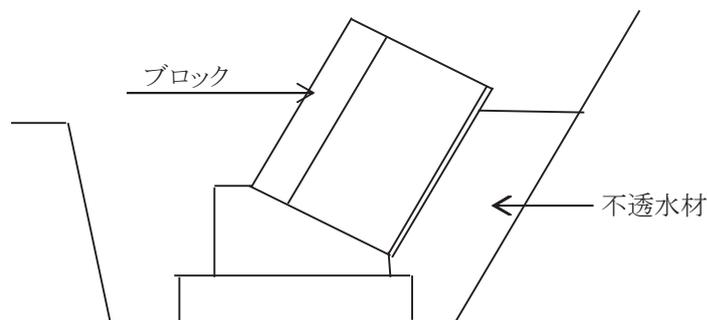
(2) 裏型枠の設置

不透水層の設置及び胴込めコンクリート打設のための裏型枠の設置を行う。
尚、裏型枠がズレないように必要に応じて適切な処置を行う。



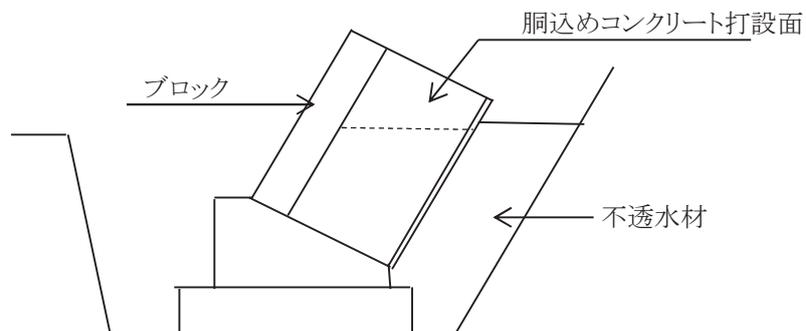
(3) 不透水層及び止水コンクリートの施工

基礎周辺部に背面土からの水の浸透による悪影響を及ぼさない様、擁壁背面に不透水層を設ける。不透水層の高さは、前面地盤面より上の高さまで設ける。但し、河川護岸、または擁壁前面に水位がある場合、不透水層は設けない。



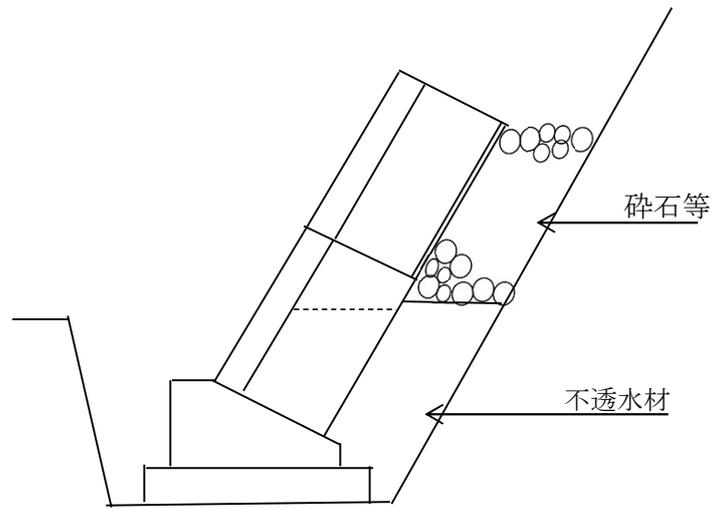
(4) 胴込めコンクリート打設

ブロック1段ごとに胴込めコンクリートを投入し、入念に締固めを行う。



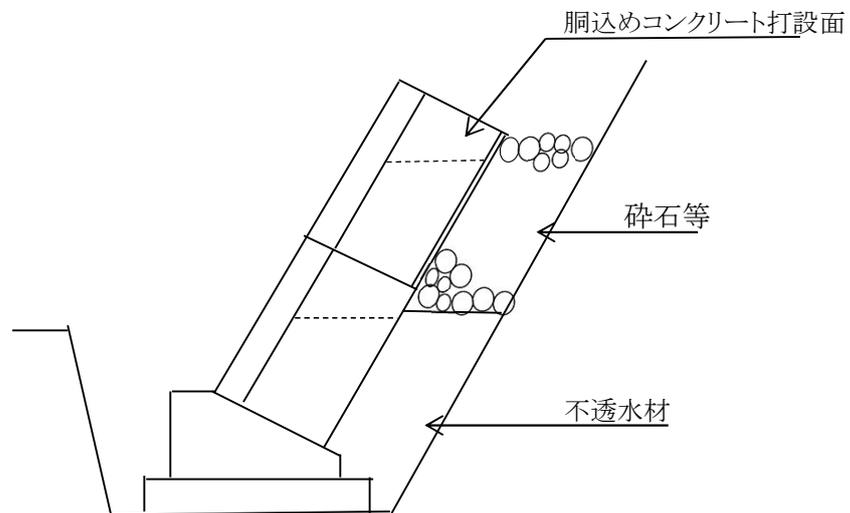
(5) 2段目ブロックの据付け、裏型枠の設置及び裏込め材の施工

2段目のブロックを1段目と同様に据付け裏型枠を設置した後、裏込め材(砕石等)を施工する。1回あたりの積層高さは30cmを標準とし、締固めを行い順次施工する。



(6) 胴込めコンクリートの打設

2段目ブロックに胴込めコンクリートを投入し、入念に締固めを行う。



(7) 天端高さ調整

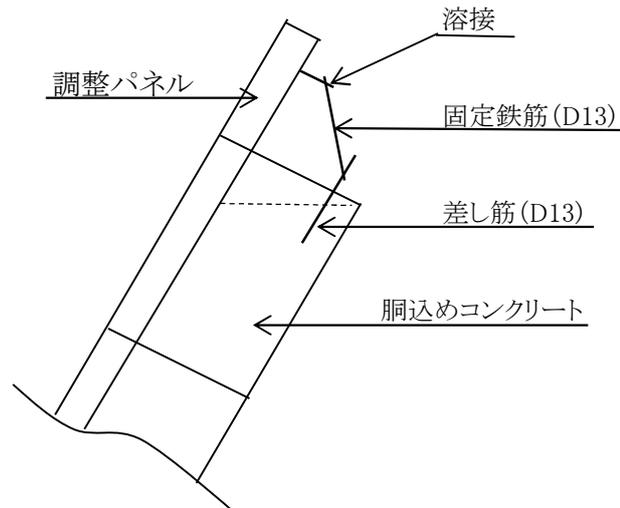
調整パネルを必要な大きさ、形状にカットして天端高さ調整を行う。

(調整パネルを用いない場合、所定の高さまで現場打ちの天端コンクリートを施す)

調整パネルの施工方法

胴込めコンクリートに差し筋(D13)を行い、固定鉄筋を溶接して

調整パネルを固定する。



〔調整パネルの固定方法の一例〕

【天端高さ調整パネルの施工例】



5. 天端コンクリート工

天端コンクリートの厚、幅など寸法、形状は設計図書に準拠する。

6. 伸縮目地工

伸縮目地の間隔は、10mを標準とする。尚、河川護岸の場合必要に応じて隔壁工の設置を検討する。

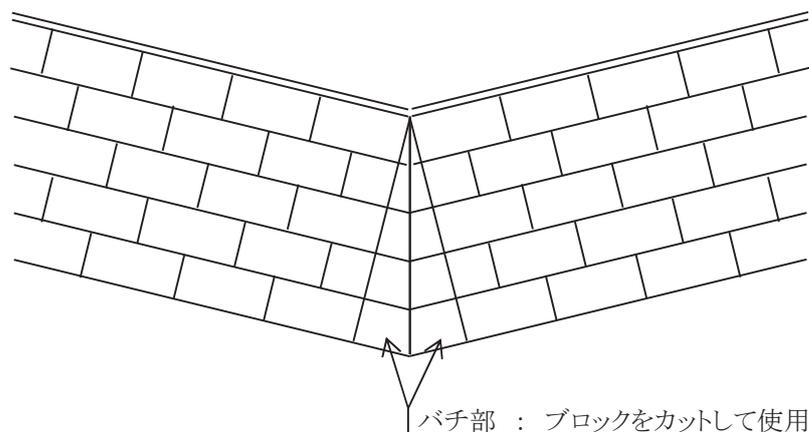
7. 曲線施工

曲線区間の施工に際しては、擁壁の勾配、高さ、区間長などに応じて検討を行う。曲線半径が大きい場合(5分勾配直高5mの時 $R=25m$ 程度以上)はブロックをずらしながら施工することでも対応可能。

曲線施工方法の例

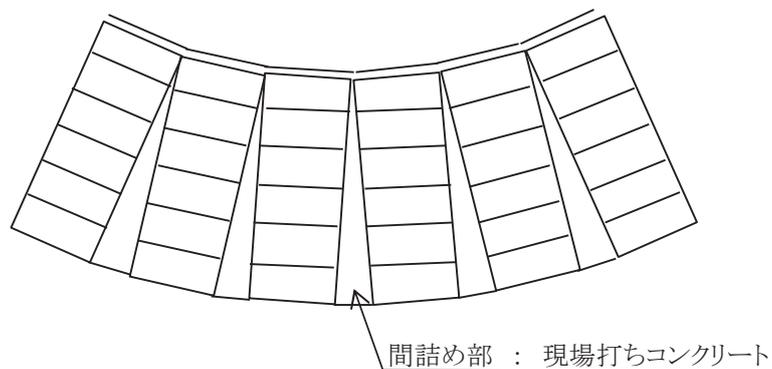
(1) 1か所の現場打ちで処理する場合

曲線半径が大きい場合また、道路線形に合わせる必要がない場合などに適用される。



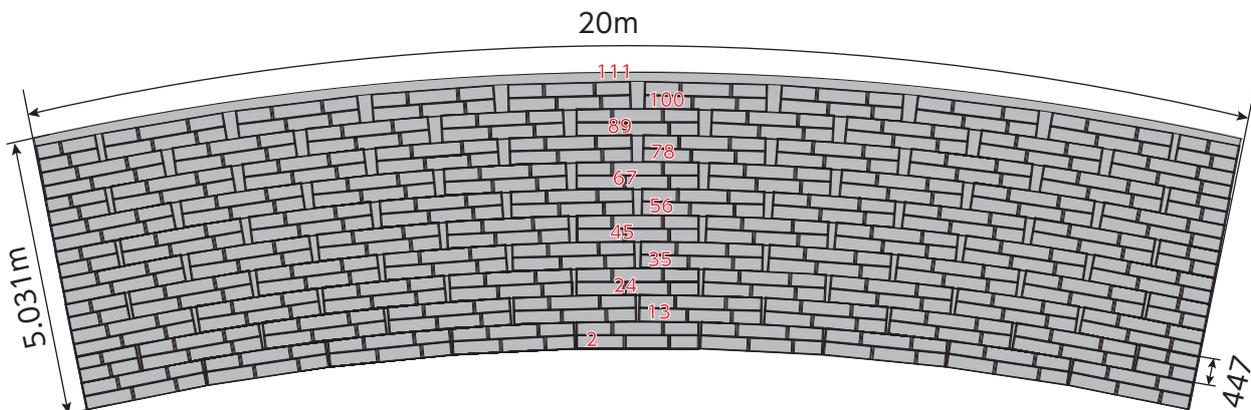
(2) 数か所の現場打ちで処理する場合

曲線半径が小さい場合に適用される。



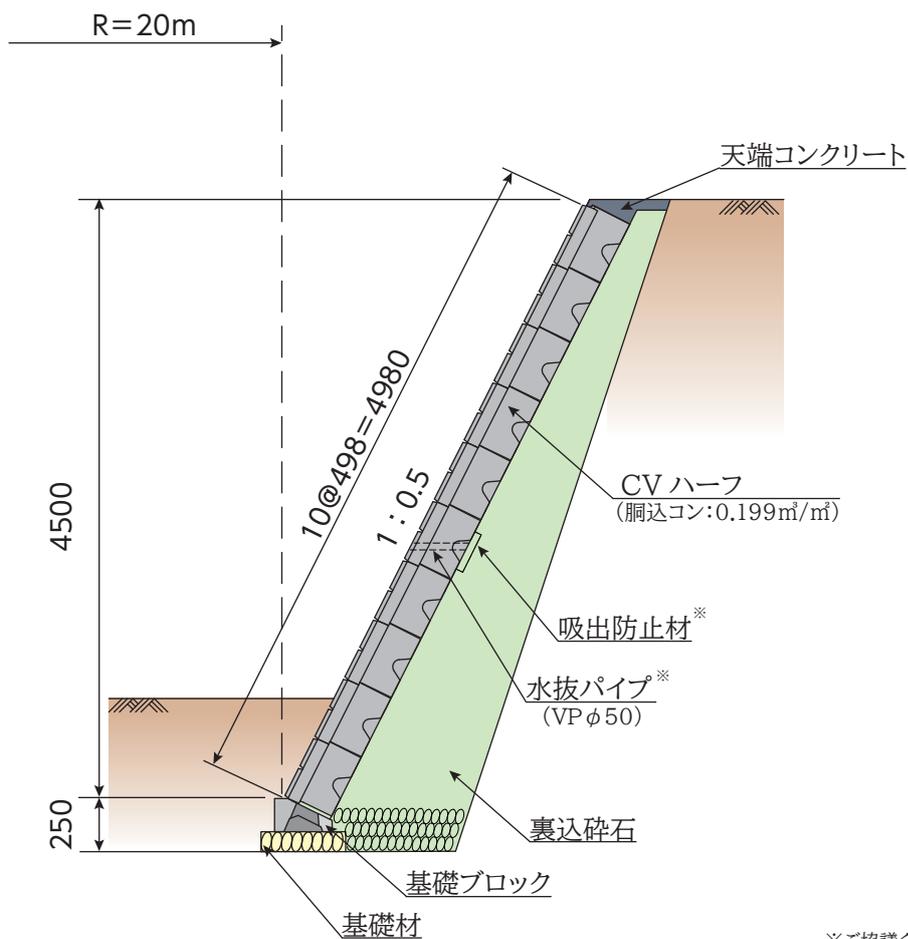
曲線区間対応例 (H=4.5m、R=20mの場合)

展開図



※赤数字はブロックの隙間です

標準断面図



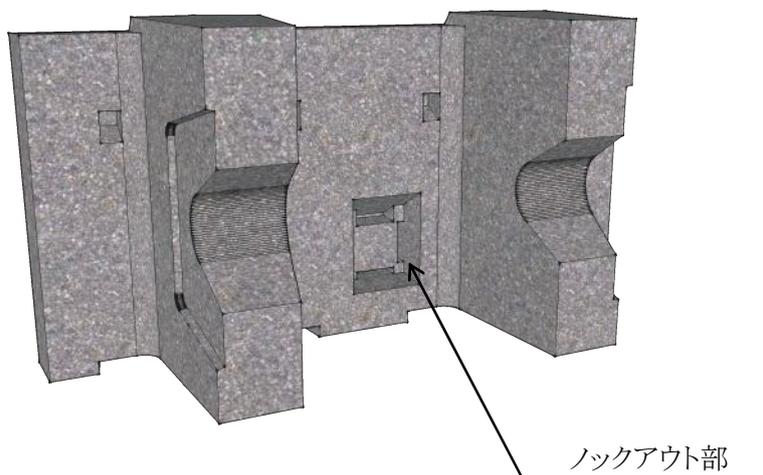
※ご協議ください

8. 水抜孔

ブロック面積2～3m²程度に1か所、内径5cm程度の水抜孔を設ける。

護岸の場合は一般に水抜きは設けないが、残留水圧が大きくなる場合などには、必要に応じて水抜孔を設けるものとする。

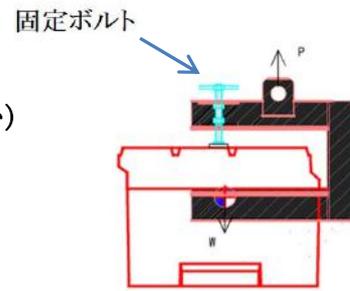
水抜きはロックアウト部をブロック前面から叩いて開孔し、水抜きパイプ(硬質ビニールパイプ)をセットする。



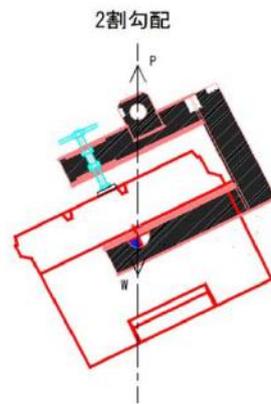
9. 吊り治具の使用上の注意事項(参考)

(1) 1.5割～2割勾配の場合

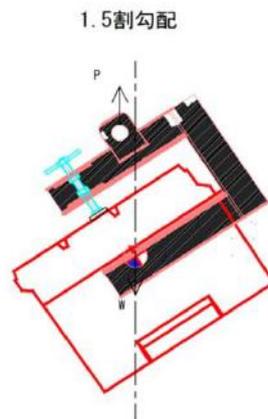
- ① 吊り治具を本体にセットする。
2対の吊り治具を控え桁の外側に
挟み込むように差し込む。
(本体と吊り治具が接するまで差し込む)



- ② 本体を吊り上げる。
本体が回転しないように固定ボルトで
固定し、本体を吊り上げる。
(固定ボルトをきつく締め過ぎない)
(吊り上げ時は2割勾配となっている)

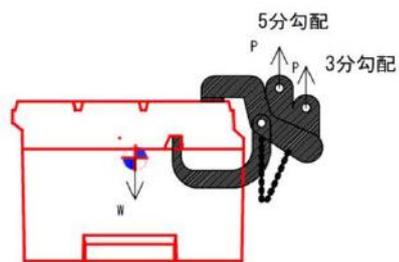


- ③ 1.5割勾配の場合
本体を所定の位置に移動し
本体を降下, 下端が接したあと
勾配調整を行い, 設置を完了する。

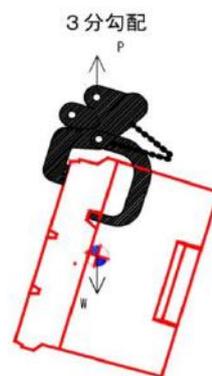


(2) 3分～5分勾配の場合

- ① 吊り治具を本体にセットする。
2対の吊り治具を控え桁の外側に本体を
挟み込むようにセットする。
(本体に設けられた穴に吊り治具の
先端が差し込まれていることを確認)

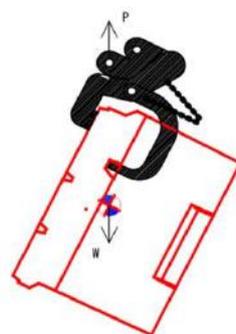


- ② 3分勾配の場合
本体を3分用吊り位置を用いて吊り
上げる。
(固定ピンを使用して吊り治具が
本体から外れないようにする)



- ③ 本体を所定の位置に移動し、降下し
設置する。

5分勾配



- ④ 5分勾配の場合
本体を5分用吊り位置を用いて吊り
上げる。



施工上の注意 <CAUTION>

- ・つり上げ時に製品が落下する恐れがあるので
製品下に入らないこと。
- ・手、指等をブロック、金具に挟まない様注意すること。